

ラオス国産業発展のための工学人材強化プロジェクト向け機材の輸送

(公告日：2023年9月29日／調達管理番号：23a00692) について、以下のとおり質問に回答いたします。

独立行政法人国際協力機構
調達・派遣業務部次長(契約担当)

通番	該当頁	該当項目	質問	回答
1	P17	別紙4 輸送条件書	対象機材の引き取りにあたり、接続部品のゴムやリング等が外された状態で集荷することは可能か。中古品となり、経年劣化している場合、解体作業時に一部破損等した場合は受注者の責となるか。解体業務も受注者の業務範囲であれば引き取り前に一度保管場所で対象機材の視察を行いたい。	貨物の解体業務も受注者の業務範囲となります。修正版の別紙4輸送条件書をご参照ください。ただし、電源ケーブルは引き取り時に東京工業大学にて電源から取り外しをします。対象機材の経年劣化による現状復帰できないものは免責とします。
2	P9	別紙2 貨物明細書	対象機材の横にある青色の実験装置は集荷時には撤去されているか。青色の実験装置の有無によって引き取り時の経路が異なる。	別紙2貨物明細書の装置①～⑤の横にある青色の実験装置は対象機材の引き取り時にございますので、あることを前提として経路をご検討ください。また、対象貨物を変更しておりますので、修正版の別紙2貨物明細書をご参照ください。付属品①～③を追加し、装置②を2つに分割しております。
3	P17	別紙4 輸送条件書	搬出作業が可能な曜日、時間帯は決まっておりますでしょうか。	平日月曜日から金曜日の8時30分～17時00分となります。受注者は搬出作業について東京工業大学と調整いたします。
4	P1	3 競争入札に付する事項 (5) 機材引取期限	引取期限が11/7となっているがいつから取りにきて良いのか。	契約締結日から機材の引取期限までに引き取りが可能で。なお、機材引取期限及び輸送完了期限を以下のとおり変更します。また、別紙1「手続・締切日時一覧」を修正しましたので、ご参照ください。 【訂正前】 ・機材引取期限：2023年11月7日 ・輸送完了期限：2023年12月15日 【訂正後】 ・機材引取期限：2023年11月14日 ・輸送完了期限：2024年1月12日
5	P14	別紙3 梱包条件書	対象装置を全て梱包する必要あるのか。梱包条件書ではバリア梱包となっているが全てバリア梱包が必要でしょうか。	対象装置①と②-1、②-2は真空バリア梱包が必須となります。その他の装置は乾燥剤の封入など錆びを防ぐための対応をお願いいたします。
6	P17	別紙4 輸送条件書	JICAが免税・輸入通関をサポートする理解で良いか。	ご理解のとおりです。
7	P18	別紙4 輸送条件書 (7) 積替え条件	積替えが禁止となっていますが、例えばタイまで海上輸送し、タイからラオスまで陸上輸送する場合の積替えも禁止でしょうか。	タイまで海上輸送し、タイからラオスまで陸上輸送する場合の積替えは禁止ではございません。他方、海上輸送にて輸出地から載せた貨物を、途中で別の港にて違う船に積み替えることは禁止となります。
8	P17	別紙4 輸送条件書 (5) 業務の範囲	受注者の業務の範囲について、仕向地までの輸送となりますでしょうか、もしくは荷下ろしまででしょうか。開梱は業務に含まれない理解で良いでしょうか。	別紙4輸送条件書のとおり、業務の範囲は荷下ろしまでとなります。受注者は仕向け地までの輸送及び荷下ろしまでを行い、荷受人にて開梱・搬入を行います。
9	P17	別紙4 輸送条件書 (5) 業務の範囲	業務の範囲が荷下ろしまで（仕向地でのデバンニング含む）、とありますが、対象機材をコンテナにて輸送する必要がありますでしょうか。	必ずしもコンテナで仕向け地まで輸送する必要はありません。別紙4輸送条件書を修正しましたので、ご参照ください。
10	P10	別紙2 貨物明細書	対象機材の引取において、東京工業大学内のどの門を使うべきでしょうか。搬入経路の情報を提供ください。	入札には西門を使用し、ルートについては、西門から1号館8号館の間の道を通って2号館への道路を使用してください。別紙2-3の搬入経路をご参照ください。
11	P10	別紙2 貨物明細書	保管場所である東京工業大学内の車両許可は必要か。	東京工業大学内の入校許可証を受注者へ発行いたします。
12	P4	1 3 入札方法等	海上貨物保険料は入札金額に含めるか。	入札金額には海上貨物保険料は含めませんが、落札後に保険料が確定後、海上貨物保険料を含め契約締結します。なお、仕向港での保管料等追加でかかる費用をリスク対応費用として入札金額に定額30万円（税抜）を計上してください。支払いの際に仕向港での保管料等追加でかかった費用を証憑書類に基づき実費精算いたします。
13	P4	1 3 入札方法等	入札金額は換算レートは指定はありますか。	以下の弊機構10月の統制レートにて下見積額及び入札金額を積算ください。 1USD=149.284円
14	P14	別紙3 梱包条件書	対象機材の温度管理は必要でしょうか。	別紙3梱包条件書のとおり、温度管理品がある場合は温度管理が必要となりますが本対象機材は温度管理の対象外です。
15	P10	別紙2 貨物明細書	対象機材は危険品に該当しますでしょうか。	輸送対象機材は危険品に該当しません。
16	P17	別紙4 輸送条件書	別紙4 輸送条件書にて「出荷国における輸出規制及び米国再輸出規制にかかる該当品の有無の確認、及び、該当品がある場合の輸出許可取得手続き」とあるが、該否判定は発注者が行う理解で良いか。	ご理解のとおりです。別紙4 輸送条件書を修正しましたので、ご参照ください。
17	P17	別紙4 輸送条件書	受注者が作成した船積書類は発注者が事前に確認する理解で良いか。	ご理解のとおりです。
18	P19	別紙4 輸送条件書	船積書類であるINVOICEについて、受注者の署名が必要でしょうか。	発注者の署名が必要です。別紙4 輸送条件書を修正しましたので、ご参照ください。
19	P20	別紙4 輸送条件書	Shipperの情報をご教示いただけますでしょうか。	Shipperについて、別紙4 輸送条件書へ追記しましたので、ご参照ください。
20	P17	別紙4 輸送条件書	ラオスにてINVOICE価格の妥当性を示す証明が必要でしょうか。	Invoice価格の妥当性を示す証明は不要です。
21	P. 19	輸送条件書 (P19 4 輸送書類 (1) ⑦)	日本国原産地証明書の発行は必要でしょうか。(現地輸送先税関から求められず不要な場合も少なくない為)	原産地証明書の発行は必要です。
22	P. 4	13入札方法等-(4)	貴機構との契約は消費税は発生しないとの意味でしょうか。輸出取引においても日本国内作業においては消費税は発生すると存じます。また、入札金額は消費税を含むか含まないかもご確認願います	日本国内作業は消費税がかかります。入札説明書を修正しましたので、ご参照ください。
23	P. 4	13入札方法等-(4)	「本件は、輸出申告の名義を落札者とする」とは？	回答No. 22のとおりです。
24	P. 22	(再委託又は下請負の禁止)	一部を業務委託する場合の手続きはありますか？	梱包など一部の業務を第三者へ委託または請け負わせることは可能です。一部の業務を第三者に委託、又は請け負いとする場合はその委託又は請け負いとする業務内容を下見積書にて明記ください。
25	-	-	再度現地調査をしたいが可能か？（東京工業大学内）	再度の現地説明会は開催しません。ただし、校内の下見をすることは可能です。下見を希望する場合は以下に申請ください。 国立大学法人東京工業大学 学院等事務部環境・社会理工学院業務推進課 環境・社会理工学院事務グループ 貝原 貴子 Tel :03-5734-3125/ Fax:03-5734-3730 E-mail : ens.adm@jim.titech.ac.jp
26	-	-	実験室からの搬出に関し、反対側の出口から搬出する事は可能か？（別添参照）	実験室からの搬出に関し、反対側の出口から搬出する事は不可となります。説明会時に出入りした出入口からの搬出をお願いします。
27	P. 14	別紙3 梱包条件書	・ケースマーク及びサイドマークを、耐水紙(シール)に印刷したものを使用して問題ないでしょうか。	問題ございません。
28	P10	別紙2 貨物明細書	輸送品見学日にご説明があった追加の3つの機器のサイズと重さを教えてください。	修正版の別紙2貨物明細書をご参照ください。
29	-	-	今回の製品のINVOICE VALUEをご教示ください。	8,806,500円となります。
30	-	-	製品のカタログはありますか。（現地での通関や作業に必要なため）	中古品及び特注機材でもあり、製品のカタログはございません。

通番	該当頁	該当項目	質問	回答
31	P17	別紙4 輸送条件書	段積み手配不可の製品があればご教示ください。	② - 1の連結部のゴム部材および② - 2の制御盤については段積み手配不可となります。
32	P14	別紙3 梱包条件書	梱包が必要なものを教示ください。	別紙3梱包条件書の梱包条件のとおり、すべて装置に適切な梱包が必要です。回答5のとおり装置①及び② - 1、② - 2には真空バリア梱包が必要となります。
33	P17	別紙4 輸送条件書 (5) 業務の範囲	製品の解体、トラックへの荷積みは東工大・貴機構側の手配でよろしいでしょうか。	解体作業及びトラックへの荷積みは受注者の業務範囲となります。
34	P17	別紙4 輸送条件書 (5) 業務の範囲	トラックへの荷積みを受注者手配の場合、フォークリフトなどの荷積み用の設備はご用意頂けるのでしょうか。	フォークリフトなどの荷積み用の設備の用意も受注者の業務範囲となります。
35	P17	別紙4 輸送条件書 (5) 業務の範囲	トラックへの荷積みを受注者手配の場合、専門業者との下見が必要になるかと思料します。下見する場合は事前許可など調整連絡先をご教示ください。	大学構内の下見については、回答No. 25に記載のとおり。
36	-	-	事前に現地側で荷受け担当者との打ち合わせは可能でしょうか。	受注者はラオスの荷受け担当者と打ち合わせが可能です。
37	P17	別紙4 輸送条件書 (5) 業務の範囲	ラオス側は荷卸しまでの業務範囲でしょうか。梱包材の処理は荷受人側手配でよろしいでしょうか。	受注者の業務範囲は対象機材の荷下ろしまでとなります。梱包材の処理は荷受人側にて行います。
38	P17	別紙4 輸送条件書	想定される経由地のタイで各種書類が必要になった場合は貴機構または荷受人からのサポートをお願いします。	経由地での各種書類が必要になった場合は弊機構及び荷受人からサポートいたします。
39	P17	別紙4 輸送条件書	今回の製品輸送について査証が必要な場合、貴機構・荷受人にてご準備頂けますようお願いいたします。	査証が必要な場合、発注者にて準備いたします。
40	P17	別紙4 輸送条件書	中古品の輸送はラオスまたは経由地で各種書類や手続きが求められる可能性があります。貴機構または荷受人側でご対応をお願いします。	ラオスまたは経由地で各種書類や手続きが求められる場合、発注者にて対応いたします。
41	P17	別紙4 輸送条件書 (5) 業務の範囲	大学内での集荷に関して、製品の分解は大学側にてご対応いただけますでしょうか。	回答No. 1のとおりです。
42	P17	別紙4 輸送条件書 (5) 業務の範囲	大学側にて分解できない場合、電気工事業者、梱包業者を引き連れ、お見積り前に再度立ち合い確認させていただけますでしょうか。	回答No. 1のとおりです。
43	P17	別紙4 輸送条件書 (5) 業務の範囲	配電盤の電源・プラグは抜いた状況にて引き渡しいただけますでしょうか。(この場合、電気工事業者手配は不要となります。電気工事を伴う場合費用が大幅にあがりますのでご注意ください)	回答No. 1のとおりです。
44	P17	別紙4 輸送条件書	ラオスでの免税手続きに関して、B/L・パッキング・インボイス情報のドラフト情報にて事前に進めていただけますでしょうか。	ラオスの免税手続きについて、B/L・パッキング・インボイス情報のドラフト情報にて事前に手続きを進めます。
45	P17	別紙4 輸送条件書	ラオスでの免税通関に際して発生する保管料は実費にて満額請求となる点ご了承ください。	別紙4輸送条件書のとおり、通常以上に日数を要した場合で、かつ受注者に責がない場合の保管料は発注者又は荷受人の負担とします。
46	P17	別紙4 輸送条件書	ラオスでの免税通関に関して、物流業者側にて用意が必要な書類がございましたらご指示ください。	Invoice, Packing list, B/L, 原産地証明になります。
47	P1	3 競争入札に付する事項 (5) 機材引取期限	現行の配送期限に関して、貨物梱包・免税通関を考慮すると現行のスケジュールでは間に合いません。 ラオス・タイも以下祝日が12月にあります。 *ラオス祝日12月2日、4日 *タイ祝日12月5日、10日、11日	回答No. 4のとおりです。
48	P17	別紙4 輸送条件書	タイ、ラオスに関して、中古の輸入機械に関する輸入規制に関してご確認ください。日本側にて検査・必要書類がある場合ご指示ください。書類の用意に関して、御機構にて日本側で作成が必要な場合もあると思料します。その際は御機構にてご用意ください。 https://www.jetro.go.jp/world/qa/04A-000965.html https://www.jetro.go.jp/world/asia/la/trade_02.html	弊機構にて作成が必要な書類がある場合は、弊機構にて用意いたします。
49	P. 9	貨物明細	集荷時、研究室からの引出して車上積み込みの作業と認識するが、引き取り出来る単位への機器の事前の解体、可動部(あれば)の養生等は完了済という認識で良いか。また、電気配線の1次側・2次側の断線及び端末処理は完了済みという認識でよいのか。②についている制御盤は取り付けられた状態では幅が搬入ロドアの内々の内寸よりも大きいため、配電盤は解体しないと搬出は不可能と思われる。	解体は受注者の作業に含まれます。電気ケーブルは東工大側で事前に電源から切り離し済みであり、本体から制御盤(コントローラ)の取り外しは可能です。
50	P. 9	貨物状態	集荷時の貨物は現状のありのままの状態でのメンテナンス等は一切されない状態で集荷するという認識で良いか。	ご理解のとおり、現状のままの状態での輸送となります。
51	P. 12	搬出口	研究室内の機器引き取り場所から搬出口外迄の経路に養生は必要か。また、事前の搬出業者による下見は可能か。	輸送時に本体や床に傷がつかない配慮は必要です。校内下見に関しては回答No. 25のとおりです。
52	P. 13	搬出口前通路	搬出口前でユニック又はフォークリフトによる荷役実績はあるか。また、これらが難しい場合、2号館側道のより広いスペースでの積込みを検討している。この場合、大学側は受け入れ可能か。可能な場合、搬出口前から左側の坂道、そこから右折して側道の広いスペース迄の養生は必要か。	搬出口前でのユニックの実績はないが、フォークリフトの荷役実績はあり、搬出口前での荷役としていただく必要があります。2号館の側道での荷役は道を塞いでしまうため不可となります。
53	P. 13	風洞実験装置の搬入時	実際に当該機器を搬入した際の作業内容はどのようになっていたのか。搬入ロドアの前に車両を駐車すると特に長い貨物を引き出せない。後ろに車両をバックさせるも駐輪場があり、有効スペースがない。	搬入時の記録はございません。
54	P. 18	3 貨物海上保険	受注者の任意とあるが、貴機構にて取引のある保険会社の特約を付した形での付保しかできないのか。輸送業者として貴機構の意図した特約に輸送上のリスクも加味した形の保険の手配は可能か。なお、落札者は落札後貴機構が特約を締結している保険会社から海上保険料の見積りを取り付けとあるが、上記保険を手配する場合下見積及び入札価格に反映すべきか。	受注者は当機構が特約を締結している保険会社の特約条件にて貨物海上保険を付保します。回答No. 12のとおり保険代は入札金額に含めず、保険代込みで契約締結します。修正版の入札説明書をご参照ください。
55	P. 17	1 (6)	危険品がある場合との記載があるが、具体的に有無と種類、数量、MSDS等の情報が無いと見積もりに正確に反映できないが、その情報は頂けるのか。後から発覚した場合、輸送できない可能性がある。なお、本貨物は危険品に該当しないと認識しているがその正否をご教示いただきたい。	回答No. 16のとおりです。
56	P. 17	1 (10)	木箱(開梱せず)のまま指定場所への荷下ろしという認識ですが、その具体的な荷下ろし場、アクセス路等の情報は頂けるのか。また、荷降ろし地においてフォークリフトでの荷役が可能か事前にご教示いただきたい。	仕向け地が荷下ろし先となります。荷下ろし地でのフォークリフト(受注者手配)の荷役は可能です。
57	P. 17	1 (10)	現地側での開梱は大学側で行うとの事ですが、防湿の木箱は釘打ちの密閉木箱で問題ないか。現地側にて十分な作業に必要な機材が準備されているか。あるいはボルト止めの開梱がし易い梱包の方が良いか。当然のごとく、開梱後の廃材の処理は含まない。(恐らく現地にて再利用されるものと思われる)	防湿の木箱は釘打ちの密閉木箱で問題ございません。開梱は荷受人にて対応いたします。
58	P. 18	(8) 発注者又は荷受人の責任と費用負担で行う事項	輸入者側での通関手配の為、通関遅延に伴って手配していた作業がキャンセルになった場合、または保管が発生した場合、そのキャンセル料や保管料は収受できるのか、通常見込まれる保管日数とEXTRAの日数の考え方はどうなるのか、「通常の通関に必要な日数」についてご教示いただきたい。	本件においては、対象機材が仕向港に着いて日から6営業日以降にかかった保管料及び通関の遅延による手配していた作業のキャンセル料は発注者もしくは荷受人の負担とします。
59	P. 18	(8) 発注者又は荷受人の責任と費用負担で行う事項	輸入者との直接の取引は無い為、Extra charge(保管料、その他見積り外の費用等)の請求は貴機構宛に請求する事で良いか。	回答No. 58のとおりです。
60	P. 18	(8) 発注者又は荷受人の責任と費用負担で行う事項	免税にて輸入通関されるに当たり、輸送業者側から提出すべき必要な書類等の指示は頂けるのか。その場合、受注者が作成する輸送書類とは別に貴機構又は荷受人が準備するという理解でよろしいか。	ご理解のとおりです。
61	P. 9	貨物明細	風洞装置 一式(中古品)のインボイス価額をご教示いただきたい。	回答No. 29のとおりです。
62	P. 19	4 輸送書類	Bill of LadingはWaybillでは不可との認識で相違ないか。	ご理解のとおりです。

通番	該当頁	該当項目	質問	回答
63	P. 9	貨物明細	③～⑥の亚克力板について、外して積み込みをすることは問題ないか。製造から30年経過しており、輸送途上の振動等で破損する可能性が高い。機器から外した状態で梱包の上、輸送する事を考えている。	構造上、取り外しは不可となります。
64	P. 15	(1)一梱包の重量は単品を除きできるだけ500kgを超えないようにすること。	対象貨物②は単体で500kgを超えてしまうが、差し支えないか。	ご理解のとおりです。

入札説明書
【電子入札システム対象案件】

2023年9月29日
独立行政法人国際協力機構

独立行政法人国際協力機構の「ラオス国産業発展のための工学人材強化プロジェクト向け機材の輸送」の調達に係る入札公告に基づく入札等については、当機構契約事務取扱細則(平成15年細則(調)第8号。以下「細則」という。)に定めるもののほか、この入札説明書によるものとします。

本業務の入札は電子入札システムで実施し、提出書類の授受等入札手続きは電子入札システム経由となります。提出書類のメール送付、郵送及び持参は原則不可とさせていただきます。

1 公告日

2023年9月29日

2 契約担当役 理事

3 競争入札に付する事項

- ・ 件名 : ラオス国産業発展のための工学人材強化プロジェクト向け機材の輸送
- ・ 輸送対象機材名 (詳細は別紙2貨物明細書を参照) :
 - 風洞装置 一式
- (1) 取引条件 : 本邦指定場所渡し
- (2) 輸出者 : JICA
- (3) 船積港 : 日本国内の国際港
- (4) 仕向港 : 受注者手配による
- (5) 機材引取期限 : 2023年11月14日
- (6) 輸送完了期限 : 2024年1月12日

4 担当部署等

(1) 担当部署

郵便番号 102-8012
東京都千代田区二番町5番地25 二番町センタービル
独立行政法人国際協力機構
調達・派遣業務部契約第三課 (機材調達班)
TEL: 03-5226-6643
メール: e_sanka@jica.go.jp

(2) 書類の提出、授受方法

原則電子入札システム上で行います。

【電子入札システムポータルサイト】

<https://www.jica.go.jp/announce/notice/ebidding.html>

5 本件入札に関する質問

- (1) 入札説明書の内容等、この入札案件に関する質問がある場合は、次に従い所定の様式により提出してください。

ア. 質問受付期限: 別紙1「入札手続・締切日時一覧表」のとおり

イ. 提出方法: 当方での取りまとめの都合上、メールでのご提出をお願いいたします。
当機構よりメールを受信した旨の返信メールをお送りします。

送付先: e_sanka@jica.go.jp

メールタイトル: 【入札説明書への質問 (社名●●)】 23a00692: ラオス国産業発展のための工学人材強化プロジェクト向け機材の輸送

ウ. 注意: 質問受付期限を過ぎてから届いた質問及び口頭による質問に対してはお答えできませんのであらかじめ了承願います。

- (2) 質問に対する回答は、別紙1「入札手続・締切日時一覧表」の日時に掲示します。
- ア. 質問回答は、掲載後に追加されて再掲載することがありますので、入札書提出までに必ず確認してください。
 - イ. 質問を受け確認したことによって、仕様・数量等が変更されることがあります。また、質問がない場合にも訂正が生じることがあります。いずれも「質問回答」欄に掲載しますので、本件競争参加希望者は、質問提出の有無にかかわらず、必ずご確認ください。入札金額は、掲載した全ての回答・訂正が反映されたものと見なされます。

6 競争参加資格

(1) 積極的資格制限

当機構の契約事務取扱細則第5条に基づき、以下の資格要件を追加して定めます。

- 1) 公告日において、令和04・05・06年度全省庁統一資格にて「役務の提供等」の格付けを有する者（等級は問わない）
- 2) 日本国登記法人
日本国で施行されている法令に基づき登記されている法人であること

(2) 消極的資格制限

以下のいずれかに該当する者は、当機構の契約事務取扱細則（平成15年細則(調)第8号）第4条に基づき、競争参加資格を認めません。

- 1) 契約を締結する能力を有しない者又は破産者で復権を得ない者
具体的には、会社更生法（平成14年法律第154号）または民事再生法（平成11年法律第225号）の適用の申立てを行い、更生計画または再生計画が発効していない法人を言います。
- 2) 当機構から「独立行政法人国際協力機構が行う契約における不正行為等に対する措置規程」（平成20年規程(調)第42号）に基づく契約競争参加資格停止措置を受けている者
具体的には、以下のとおり取扱います。
 - ア. 競争参加資格確認申請書の提出期限日において上記規程に基づく資格停止期間中の場合、本入札には参加できません。
 - イ. 資格停止期間前に本入札への競争参加資格確認審査に合格した場合でも、入札執行時点において資格停止期間となる場合は、本入札には参加できません。
 - ウ. 資格停止期間前に落札している場合は、当該落札者との契約手続きを進めます。
- 3) 独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程（平成24年規程(総)第25号）第2条第1項の各号に掲げる者
具体的には、反社会的勢力、暴力団、暴力団員、暴力団員等、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロ、特殊知能暴力集団等を指します。
- 4) 次の各号の一に該当すると認められる者であって、その事実があった後2年を経過しない者
 - ア. 契約の履行にあたり故意に工事若しくは製造を粗雑にし、又は物件の品質若しくは数量に関して不正の行為をした者
 - イ. 公正な競争の執行を妨げた者又は公正な価格を害し若しくは不正な利益を得るために連合した者
 - ウ. 落札者が契約を結ぶこと又は契約者が契約を履行することを妨げた者
 - エ. 監督又は検査の実施にあたり職員の職務の執行を妨げた者
 - オ. 正当な理由がなくして契約を履行しなかった者
 - カ. 前各号の一に該当する事実があった後2年を経過しない者を、契約の履行にあたり、代理人、支配人その他の使用人として使用した者

7 競争参加資格確認の申請

- (1) 本競争の参加希望者は、電子入札システムの「競争参加資格確認申請書」画面より全省庁統一資格審査結果通知書(写)をPDFで添付して提出してください。同システムを介して発注者から書類の授受の確認及び競争参加資格の有無について確認通知を受けなければなりません。なお、下記の締切日時までに必要書類を提出しない者及び競争参加資格がないと通知された者は、競争に参加することができません。
 - ア. 競争参加資格申請書受付締切日時： 別紙1「入札手続・締切日時一覧表」のとおり
 - イ. 提出書類：
令和04・05・06年度審査結果通知書(全省庁統一資格) 写し及び下見積書
- (2) 競争参加資格の確認結果別紙1「入札手続・締切日時一覧表」の日時までに電子入札システムにより通知します。結果が期日までに通知されない場合は、上記4. にお問い合わせください。
- (3) その他
 - ア. 発注者は、提出された申請書を、本件の競争参加資格の確認以外に申請者に無断で使用することはありません。
 - イ. 申請書に関する問い合わせ先は、上記4. を参照ください。

8 下見積書

- (1) 本競争への参加希望者は、電子入札システムで競争参加資格確認申請書を提出する際に、下見積書をPDF等に変換の上、添付ファイルとして提出ください。下見積書には、商号または名称及び代表者氏名を明記してください。
 - ア. 様式は任意ですが、金額の内訳を可能な限り詳細に記載してください。
 - イ. 消費税及び地方消費税の額（以下「消費税額等」）を含んでいるか、消費税額等を除いているかを明記してください。
 - ウ. 下見積書提出後、その内容について当機構から説明を求める場合があります。

9 業務内容説明会

- (1) 業務内容説明会の開催
 - ア. 日時： 別紙1「入札手続・締切日時一覧表」のとおり
 - イ. 場所： 国立大学法人 東京工業大学 東京都目黒区大岡山2-12-1 緑が丘2号館（南側）
水工系実験室（吉村・藤井研究室）
 - ウ. その他：参加希望者は別紙1「手続・締切日時一覧」の申請締切日時までに電子メールにて、社名、参加希望者（2名まで）の氏名、連絡先を連絡願います。また、業務内容説明会への出席は競争参加資格の要件とはしません。説明会に出席していない者（社）も競争への参加は可能です。

10 辞退書の提出

- (1) 競争参加資格の確認を受けた者が競争参加を辞退するときは、電子入札システム「辞退書_提出」ボタンから辞退届を提出することとなっています。
辞退書提出期限：入札書受付締切予定日時まで
- (2) (1) の手続きにより競争参加を辞退した者は、これを理由として以後の資格の確認等について不利益な取扱いを受けるものではありません。
- (3) その他
 - ア. 提出期限以降における辞退書の取り消しは認めません。
 - イ. 辞退書に関する問い合わせ先は、上記4. 参照。

1.1 入札執行（入札）の日時

本入札において、再入札の可能性もあるため、入札者は開札予定日時に電子入札システムを操作できる場所で待機願います。再入札については、発注者から再入札実施日時を通知しますので、指定時間中に再入札書を電子入札で提出願います。

また、時間内に再入札もしくは辞退の意思表示がなされない場合には失格となります。

- (1) 入札書受付締切日時：2023年10月30日正午
- (2) 開札日時：2023年10月31日14時
- (3) 再入札の場合は、発注者からのメール及び電子入札システムにより再入札の指示以降、上記同様に再入札書受付開始/締切及び開札予定日時を電子入札システムで確認した上で再入札書を提出して下さい。

1.2 入札者の失格

入札書受付締切予定日時までに入札書を提出しなかった場合（再入札時の場合も含む）には入札者を失格とします（受注者側のPCのトラブルによる場合も含む）。

その他入札執行者の指示に従わなかったときも失格とします。

1.3 入札方法等

- (1) 電子入札システムで入札を行います。
- (2) 以下の費用を含んだ総価（円）をもって入札金額とします。ただし、輸入通関は相手国政府の責任と費用負担で行います。
 - ア. 別紙3梱包条件書に基づく輸出梱包にかかる費用
 - イ. 別紙4輸送条件書に基づく輸送にかかる費用
- (3) 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額をもって落札価格とします。海上貨物保険料は入札金額及び落札金額に含みませんが、落札後、発注者が特約を締結している保険会社から特約条件の貨物海上保険料を加算して契約金額とします。
- ~~(4) 本件は、輸出申告の名義を落札者とする輸出取引であり、契約金額に消費税はかかりません。~~
- (5) 一旦提出した入札書は、引換、変更又は取消することができません。
- (6) 入札保証金は免除します。

1.4 入札の無効

次の各号のいずれかに該当する入札は無効とします。

- (1) 競争に参加する資格を有しない者のした入札
- (2) 入札書締切日時後に到着した入札
- (3) 明らかに連合によると認められる入札
- (4) 同一入札者による複数の入札
- (5) その他入札に関する条件に違反した入札
- (6) 条件が付されている入札

1.5 落札者の決定方法

- (1) 発注者の予定価格の範囲内で最低の価格をもって入札した者を落札者とします。
- (2) 落札となるべき同価の入札をした者が2者以上あるときは、電子入札システムの電子くじにより落札者を決定します。

1.6 入札手順等開札までに行うべきこと

- (1) 入札の手順
 - 1) 開札までに行うべきこと
入札者は電子入札システムにより入札書締切日時までに入札金額を入力・提出します。
 - 2) 開札
入札執行者は、開札時刻に電子入札システムにより開札し、入札結果をシステム上で入札者に開示します。
 - 3) 再入札及び不落随意契約交渉
 - ア. 開札後、再入札が発生した際には入札者は電子入札システムにより再入札通知書に記載の入札書受付/締切日時、開札日時及び入札最低金額に従って、再入札書を提出します。入札者は開札日時以降、入札結果を確認できるようPCの前で待機するようお願いします。

- イ. 開札の結果、すべての入札金額が予定価格を超える場合には、ただちに2回目の再入札を行います。再入札を2回行っても落札者がいないときは、入札を打ち切り、入札金額の最も低いものから、順次不落随意契約の交渉を行う場合があります。
なお、1回目もしくは2回目の再入札が応札者全員の辞退による不調に終わった場合には、その前の入札における入札金額の最も低いものから、順次不落随意契約の交渉を行う場合があります。
また、上記経緯による不落随意契約の交渉が不調であった場合には、再入札を辞退した者との間でも不落随意契約交渉を行う場合があります。

(2) 入札途中での辞退
「不調」の結果に伴い、再入札を辞退する場合は、「辞退」表示を選択して辞退届を提出して下さい。

(3) 落札者と宣言された者の失格
落札者と宣言された者について、入札金額が著しく低い等、当該応札者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不相当であると認められる場合には当該落札者を失格とし、改めて落札者を決定する場合があります。

1.7 内訳明細書の提出、契約書作成及び締結

(1) 落札者は、当機構が特約を締結している保険会社から特約条件の貨物海上保険料の見積り（料率は特約で定めています。保険料の現場戻しはありません。）を取り付け、落札価格に海上貨物保険料を加算した最終見積書を提出するものとします。当機構は最終見積金額を査定の上、契約金額を確定します。なお、落札者は保険申込み及び保険料払い込みを行いますが、被保険者は当機構になります。

(2) 落札者は、入札日の翌日から起算して7営業日以内に内訳明細書を提出してください。7営業日以内に内訳明細書の提出がない場合には、当該落札者を失格とすることもあります。

(3) 当機構における内訳明細書の確認及び内部手続きの完了後、契約相手と決定された者は電子契約書による契約に同意するものとみなし、当機構が別紙5契約書（案）に基づき作成し、電子署名により締結します。（契約書の日付は、内訳明細書の確認及び当機構の内部決裁が完了後に当機構が指定します。）

なお、書面による契約を希望する場合は、落札後発注者へご照会ください。電子契約書の導入については次のURLをご参照ください。

https://www.jica.go.jp/announce/information/20221021_02.html

(4) 契約保証金は免除します。

1.8 留意事項

(1) 委任状等に虚偽の記載をした場合においては、措置規程に基づき措置を行うことがあります。

(2) 落札者が独占禁止法あるいは刑法に定める談合等不正行為を犯し、行政処分または刑が確定したときは、落札者は談合等不正行為にかかる違約金として契約金額の100分の10を当機構へ支払うものとします。また、この場合当機構は当該落札者とは契約を締結しません。もし契約締結後にかかる状況になった場合は、当機構は、契約書に基づき、同上の違約金を徴取するとともに、該当契約を解除します。

(3) 正当な理由なくして関連業務が粗雑あるいは不誠実と認められる場合は、次回以降の入札参加をお断りする場合があります。

1.9 情報の公表について

「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成22年12月7日閣議決定）において、独立行政法人の役職員経験者の契約相手方への再就職の情報や当該法人との間の取引等の情報を公表することとされたことに伴い、JICAでも同情報の公表を行っています。

つきましては、当機構においてもこれに基づき関連情報を当機構ホームページで公表することとしますので、必要な情報の当方への提供及び情報の公表に同意の上で、競争に参加していただくようご理解とご協力をお願いいたします。なお、契約の締結をもって、本件公表に同意されたものとみなさせていただきます。

- (1) 公表の対象となる契約相手方
次のいずれにも該当する契約相手方
- ア. 当該契約の締結日において、当機構の役員経験者が再就職していること又は当機構の課長相当職以上経験者が役員等として再就職していること
(注) 役員等とは、役員のほか、相談役、顧問その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、経営や業務運営について、助言することなどにより影響力を与え得ると認められる者を含む。
- イ. 当機構との間の取引高が、総売上又は事業収入の3分の1以上を占めていること
- (2) 公表する情報
契約ごとに、物品役務の名称及び数量、契約締結日、契約相手方の氏名・住所、契約金額等と併せ、次に掲げる情報を公表します。
- ア. 当機構の役員経験者又は当該契約相手方の役員等として再就職している当機構課長相当職以上経験者の氏名、契約相手方での現在の職名及び当機構における最終職名
- イ. 契約相手方の直近3カ年の財務諸表における当機構との間の取引高
- ウ. 契約相手方の総売上高又は事業収入に占める当機構との間の取引割合が、次の区分のいずれかに該当する旨
- ・ 3分の1以上2分の1未満
 - ・ 2分の1以上3分の2未満
 - ・ 3分の2以上
- エ. 一者応札又は応募である場合はその旨
- (3) 当機構の役員経験者の有無の確認日：当該契約の締結日とします。
- (4) 情報提供の方法
契約締結時に所定の様式を提出していただきますので、ご協力をお願いします。
詳細は、次のページをご参照ください。
<https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/corporate.html>

以上

様式集

<参考様式>

【入札手続に関する様式】

質問様式

【契約締結に関する様式】

最終見積書

内訳明細書（機材仕様明細書）

契約書

機材調達契約約款

梱包条件書

輸送条件書

【契約締結後の提出書類】

支払先口座届出書

以上の様式のデータは、国際協力機構ホームページ「調達情報」→「調達ガイドライン、様式」→「様式」「海外向け資機材の調達」「一般競争入札」よりダウンロードできます。

https://www.jica.go.jp/announce/manual/form/oversea/op_tend.html

なお、宛名に理事名、件名、公告番号、公告日、入札日を記載する様式には、以下の通り記載してください。

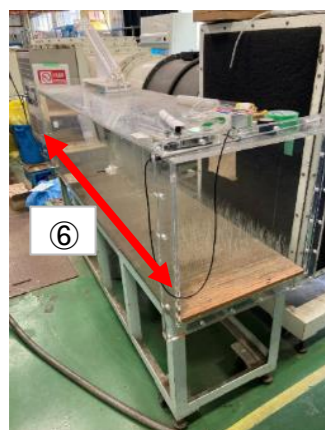
- ・ 宛名：独立行政法人国際協力機構 契約担当役 理事
- ・ 件名：ラオス国産業発展のための工学人材強化プロジェクト向け機材の輸送
- ・ 公告番号：23a00692
- ・ 公告日：2023年9月29日
- ・ 入札日：2023年10月31日

手続・締切日時一覧 (23a00692)

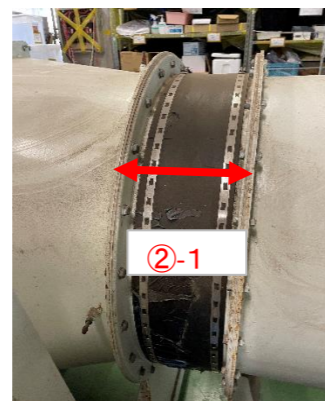
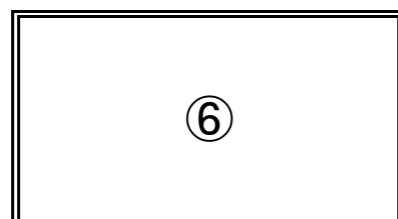
メール送付先	e_sanka@jica.go.jp
--------	--------------------

No.	入札説明書該当箇所	授受方法	提出期限、該当期間	メール件名	備考
1	業務内容説明会の参加申請	メール	2023/10/05(木)10:00 に開催、前営業日正午までに申請	【参加依頼】(調達管理番号)_(法人名)_業務内容説明会	-
2	入札説明書に対する質問の提出	メール	公告日から2023/10/10(火)正午まで	【質問】(調達管理番号)_(法人名)_入札説明書	-
3	質問に対する機構からの回答掲載	-	2023/10/12(木)16:00以降	-	機構がHPに掲載。但し、質問がない場合は、掲載はありません。
4	競争参加資格申請書・下見積書の提出	電子入札システム	2023/10/24(火)正午まで	-	受領確認を電子入札システムより通知します。
5	競争参加資格確認結果の通知	電子入札システム	2023/10/25(水)まで	-	確認結果を電子入札システムより通知します。
6	入札書の提出	電子入札システム	2023/10/30(月)正午まで	-	入札書については、電子入札システムの所定の項目を入力ください。
7	入札執行(入札会)の日時	電子入札システム	2023/10/31(火)14:00	-	入札結果については電子入札システムより通知します。

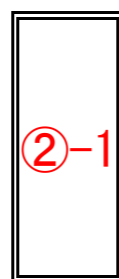
貨物明細書



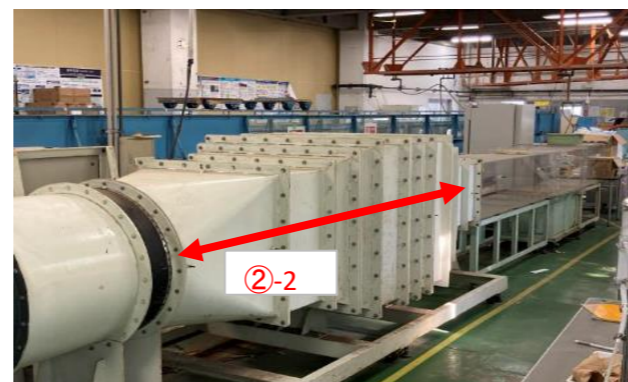
L 2010
W 610
H 1205



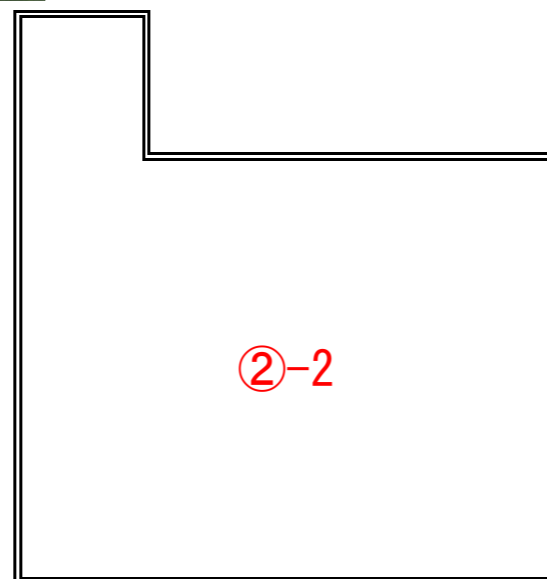
②-1



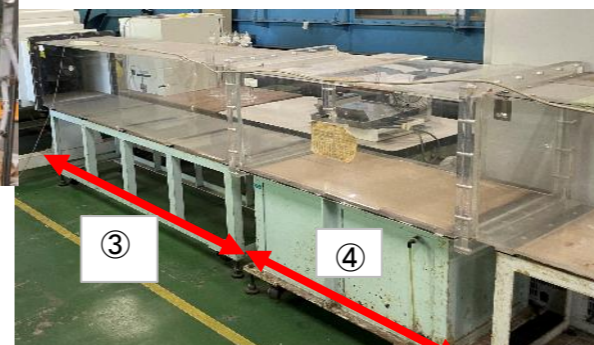
15
80
80



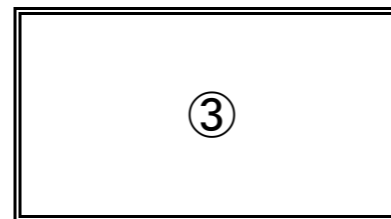
②-2



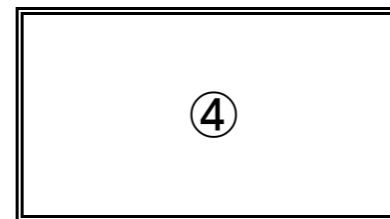
L 3455
W 1650
H 1485



③



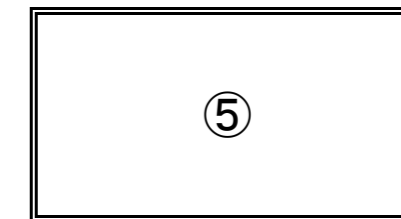
L 2020
W 620
H 1230



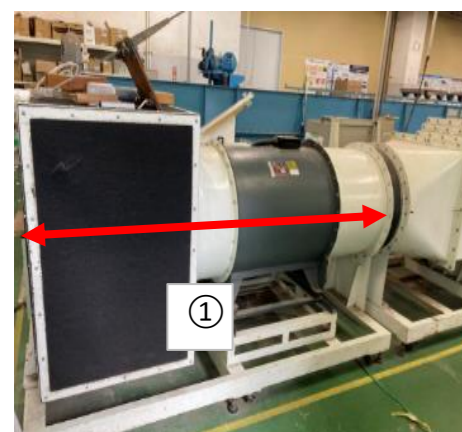
L 1005
W 620
H 1230



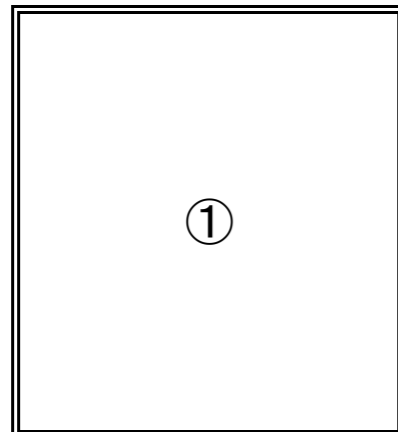
⑤



L 1000
W 620
H 1235



①



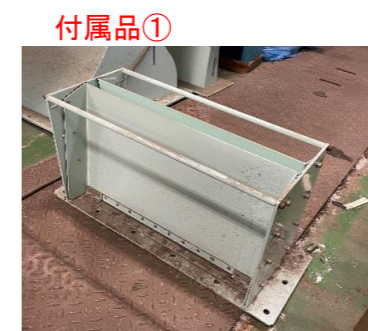
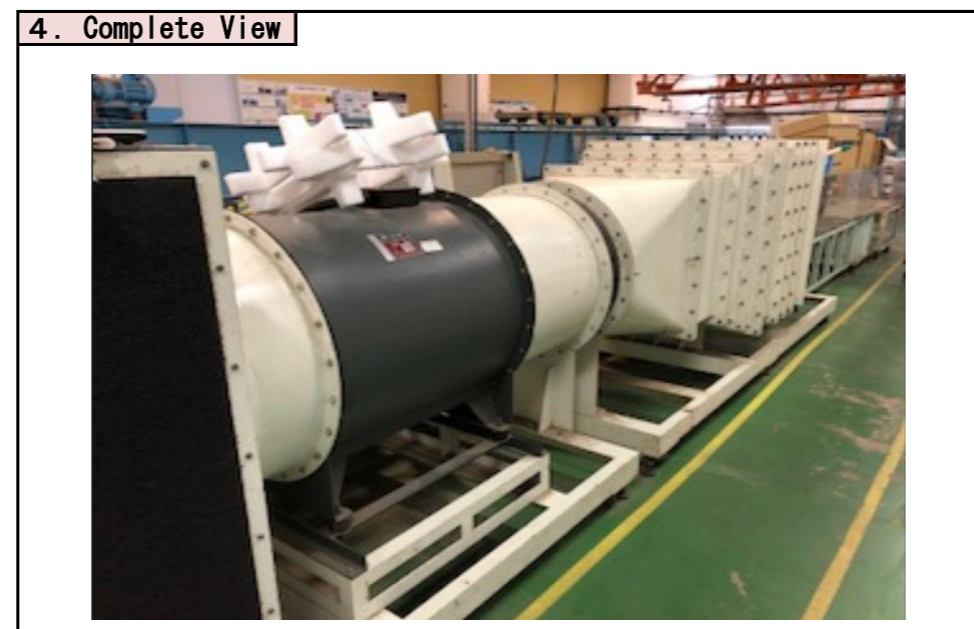
L 2620
W 1200
H 1480

1. 対象貨物寸法及び重量	
装置①	262cm X 120cm X 148cm, 860Kg
装置② - 1	15cm X 80cm X 80cm, 20Kg
装置② - 2	347cm X 165cm X 148cm, 1,220Kg
装置③	202cm X 62cm X 123cm, 500kg
装置④	101cm X 62cm X 123cm, 330kg
装置⑤	100cm X 62cm X 123cm, 330kg
装置⑥	201cm X 61cm X 121cm, 600kg
付属品①	51cm X 22cm X 32cm, 10kg
付属品②	63cm X 61cm X 60cm, 60kg
付属品③	57cm X 23cm X 42cm, 10kg

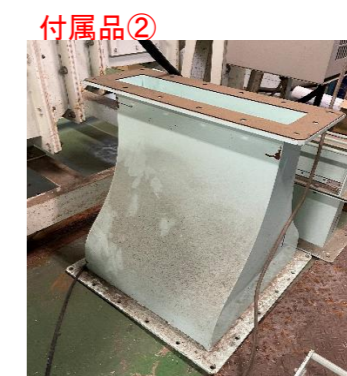
2. 貨物明細	
輸送対象機材名	風洞装置 一式 (中古品)

3. 保管場所 (貨物引取場所)	
国立大学法人 東京工業大学 東京都目黒区 大岡山2-12-1 緑が丘2号館 (南側) 水工系実験室	

(吉村・藤井研究室)



10kg
L 51
W 22
H 32



60Kg
L 63
W 61
H 60



10Kg
L 57
W 23
H 42

画像

品名: 「中古風洞試験装置」

理化精機工業株式会社 製造番号92-072 (本体)

MITSUYA FAN MFG CO.,LTD (ファン部分)

型式:AP NO.710

製造年月日:1993年2月製

MACHINE NO:03020010

使用場所:東京工業大学 緑が丘2号館 (南側)

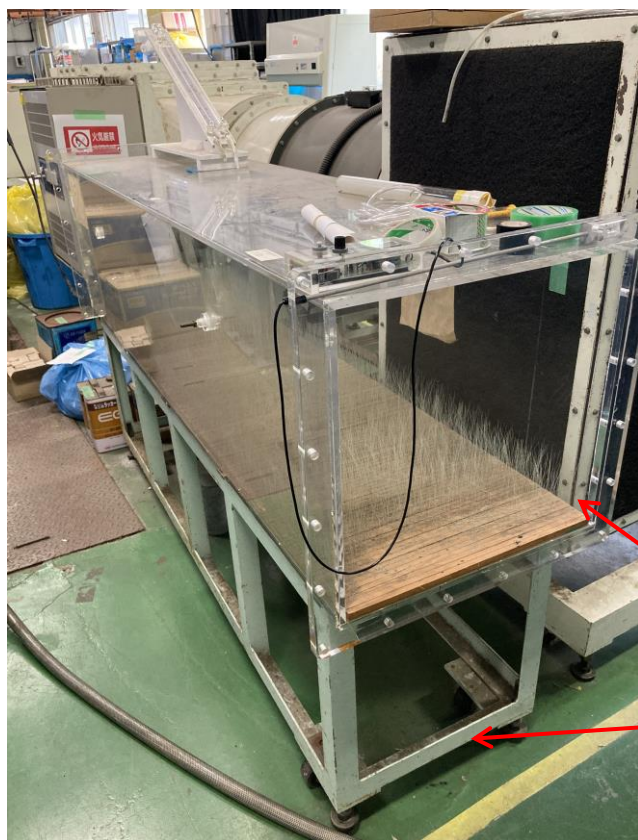
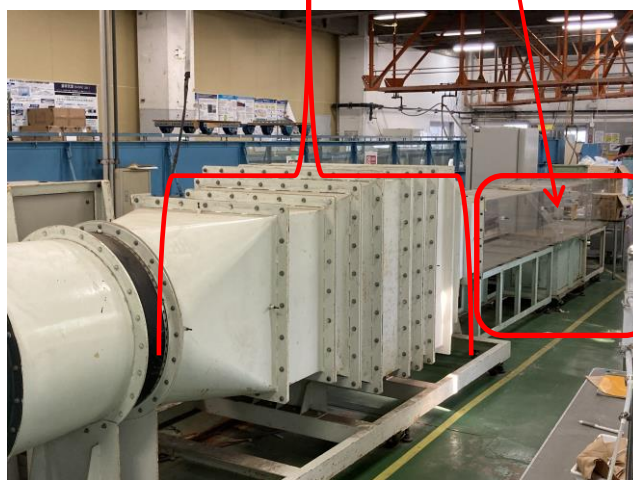
水工系実験室 吉村・藤井研究室

サイズ: 10m(L) x 2.8m(W) x 1.5m(H)、2トン

アクリル製のケースと
鉄製の土台。
夫々3つに分解できる。
全てコロが装着。

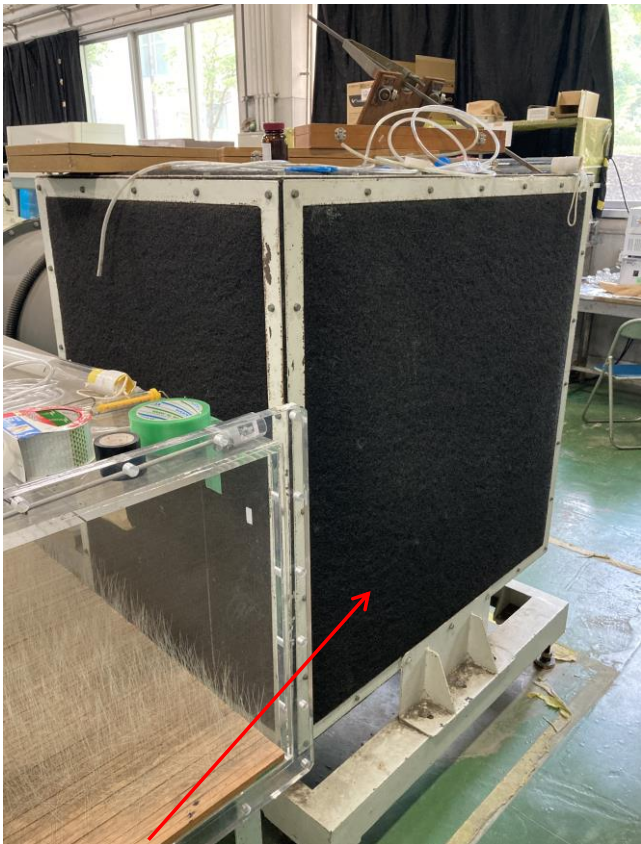
フィルターで囲まれた四角の黒い空気吸入口からファン本体は1SET
鉄製の土台にはコロが装着している。

ファンの次の胴体の部分で1SET
鉄製の土台にはコロが装着している。

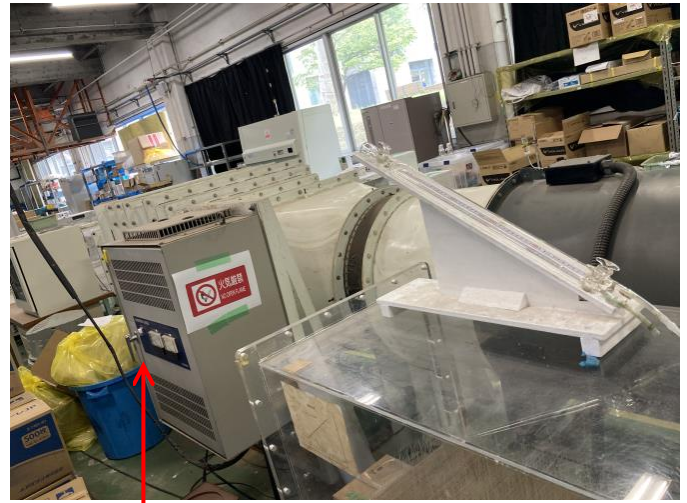


アクリル製のケースと

鉄製の土台
コロが装着している。



空気を吸入する入り口
鉄製の土台にはコロが装着している。



コントロールパネル



このドアから設備を搬出する。



出入口側から見た実験室の様子

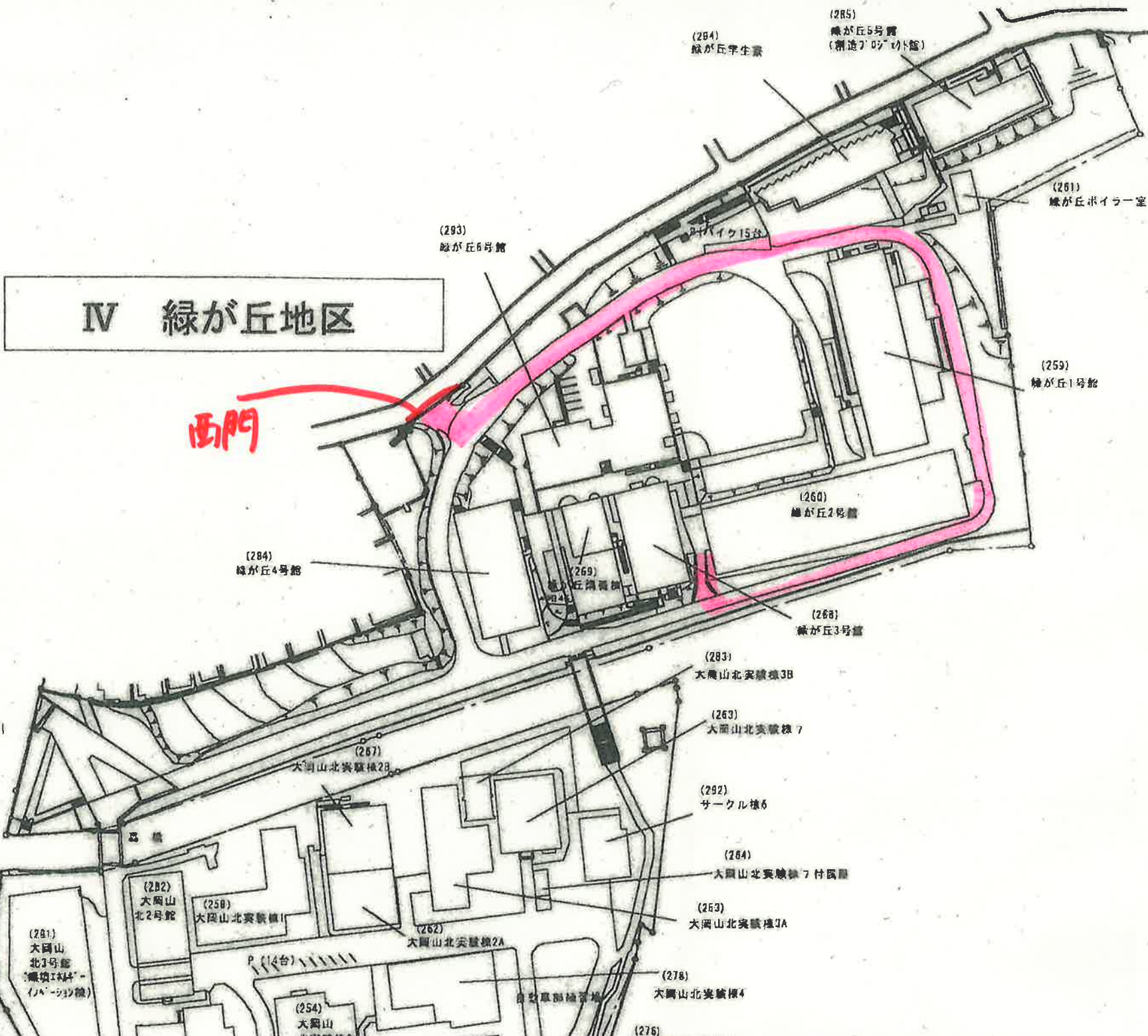
実験室の出入口外側。トラック(ユニック車)を停車するスペースはあるが、このスペースまでの曲がり角で10トンは曲がれないので、4トンになると予想



袋小路なのでトラックは回転(Uターン)できないのでバック

IV 緑が丘地区

西門



梱包条件書

1 マーキング

梱包ケースの両サイドには、下記のマークをつけること。

(1) ケース・マーク（黒字）

(National University of Laos)



(Vientiane, Laos)

(インボイス番号)

C/No. (ケース番号/ケース数)

(2) サイド・マーク（赤字）

■英語： TECHNICAL COOPERATION BY THE GOVERNMENT OF JAPAN

□仏語： COOPERATION TECHNIQUE PAR LE GOUVERNEMENT DU JAPON

□西語： COOPERACION TECNICA POR EL GOBIERNO DEL JAPON

(3) CAUTION/CARE MARK (TOP MARK等)

運送途中で取扱注意が必要な場合は、関連マーク（FRAGILE, HANDLE WITH CARE, THIS WAY UP, CENTER OF GRAVITY等）を見やすい位置に貼付。危険物がある場合は、安全な梱包とし、危険物である旨マークを貼付すること。温度管理品がある場合は、温度管理品である旨マークを貼付すること。

(4) 注意事項

- ① 輸送中での盗難防止のため、梱包ケースにはメーカー名やメーカーのマーク、MADE IN JAPANの標記等をつけないこと。
- ② 梱包ケース毎にパッキングリストを作成し、パッキングリストに記載するケース番号と実際のケースに付けるケース番号・内容品は一致させること。
- ③ 梱包ケース内の各々の包装箱・袋には、契約書中の内訳明細書の該当するアイテム番号を付すこと。

2 梱包条件

以下を参考としつつ、受注者の責任で適切な梱包とすること。

ア 海上輸送・航空輸送の共通事項

- (1) 仕向地にて大型フォークリフト等がない場合を考慮し、一梱包の重量は単品を除きできるだけ500kgを超えないようにすること。
- (2) その上で、フォークリフトによる積卸しを想定して、梱包ケースには、滑材、すり材をつけること。
- (3) 各個の重量、容積を平均化し、梱包ケース内には緩衝材を入れて、中の資機材が動揺しないようにすること。また、梱包ケースには必要に応じて重心位置を示すこと。
- (4) 危険物は、国連で定められた輸送用容器（包装・梱包方法）で輸送すること。
- (5) 免税通関が完了するまで屋外の保税蔵置場に置かれることもあるため、中の資機材が雨水で濡れないよう必要に応じ防水処理を行い、結露による錆びを防ぐための乾燥剤の封入などの対応をすること。
- (6) 精密機械や有効期間があるもののような特別配慮を要する資機材については、メーカーと相談し、メーカーが機材の特性から本梱包条件書と異なる梱包方法を提案する場合は、それを採用すること。
- (7) 付属品を含む機材は、本体と付属品を原則同じ梱包ケースに含めることとし、開梱時に機材を容易に判別できるよう配慮すること。

イ 海上輸送梱包

- (1) 長期間の海上輸送に適した堅牢かつ取扱上便利な梱包であること。そのため、原則として、合板密閉梱包とする。梱包に使用する合板は、JAS規格の普通合板とすること。ただし、機材によっては嚴重梱包が必要な場合やパレット梱包、すかし梱包またはスチール梱包等が良い場合もあるので、メーカーと相談のうえ適切な梱包とすること。
- (2) 木材梱包とする場合は、次の条件によること。
 - ①原則としてJIS Z 1402以上の規格の木箱密閉梱包とする。
 - ②重量が500kg以上かつ長さ15m、幅5m、高さ5m以内の場合は、JIS Z 1403以上の規格の枠組箱密閉梱包。
 - ③仕向地により国連公表の国際基準（ISPM NO.15）に基づき熱処理・燻蒸などの必要な処理を行った木材を使用すること。
 - ④熱処理・燻蒸証明書：必要／不要。
- (3) 必要に応じ、梱包ケースの側板の上下又は中間、及びふた板の両サイド又は中間に、胴棧を打ちつけること。
- (4) 梱包ケースは、必要に応じ、帯鋼、すみ金、かど金により補強すること。
- (5) 電気機器、精密機械、その他特別配慮を要する機材については、真空バリア梱包とすること。
- (6) コンテナによる輸送の場合、20フィートまたは40フィートコンテナの内法寸法に配慮し、コンテナに納めたときに無駄の少ない大きさを各梱包ケースをまとめること。

- (7) FCLの場合は、その中の貨物は段ボール箱でもよい場合もあるが、LCLの場合は、合板密閉梱包又は木材梱包とすること。
- (8) 内陸輸送に当たって海上輸送用の梱包ケースを解体する場合に備え、各々のアイテムの包装をダブルカートン強化段ボール箱等内陸輸送に耐えられるものにしておくこと。

ウ 航空輸送梱包

- (1) 原則としてダブルカートン強化段ボール箱梱包とすること。
- (2) 原則として高さ160cm以内かつ長さ・幅・高さの合計が250cm以下とし、外装を含めた総重量は1個500kg以下とすること。
- (3) 航空会社は最大高さ3mまでの段積みを行うため、下段に積まれた貨物は、上段の貨物の自重に加え、航空機が運航中に受ける荷重(通常2G程度)も合わせて受けることになるので、十分な強度を持った段ボール(JIS Z 1506及びJIS Z 1516の規格を満たす複両面段ボールまたは複々両面段ボール)により、かつ JIS Z 1507の規格を満たす形状の箱とすること。上面には十分な強度を持たせ、かつ平坦な形状となるように梱包すること。
- (4) 高さ160cmを上回る場合、長さ・幅・高さの合計が250cmを上回る場合、または外装を含めた総重量が1個50kgを上回る場合は、海上輸送用梱包の条件に基づく合板密閉梱包又は木材梱包とすること。
- (5) 気圧の変化に耐えられるように梱包すること。
- (6) 危険物の場合は、ICAO、IATA等の規則に従うこと。
- (7) 温度管理品(冷蔵品、冷凍品)は、保冷剤やドライアイスなどを適切に利用すること。

以上

輸送条件書

1 業務内容

- (1) 仕向地までの輸送手配（機材保管場所からの引き取り、解体業務含む）
- (2) 仕向国輸入通関時に必要な書類（領事査証、原産地証明等）の確認と取得手配
- ~~(3) 出荷国における輸出規制及び米国再輸出規制にかかる該当品の有無の確認、及び、該当品がある場合の輸出許可取得手続き~~
- (4) 船積書類（B/L/Air Waybill、インボイス、パッキングリスト等）の作成
- (5) 輸出通関手続き
- ~~(6) 危険品がある場合の諸手続き~~
- (7) 温度管理品がある場合、輸送中（通関手続き中、内陸輸送中含む）の温度管理に留意すること。
- (8) 貨物海上保険付保
- (9) 経由国を通過するための諸手続き
- (10) 仕向港/到達地空港から仕向地までの内陸輸送
- (11) 上記に付随する業務

2 輸送条件

- (1) 船積港/出発地空港 日本国内の国際港（受注者の手配による）
- (2) 仕向港/到達地空港 受注者の手配による
- (3) 仕向地：
（宛名）Department of Civil Engineering Faculty of Engineering,
National University of Laos.
（住所）
Sokpaluang Campus, Lao-Thai Friendship Rd., Sisattanak District,
Vientiane Capital,
Lao PDR
- (4) 輸送対象機材
別紙 2 貨物明細書のとおり。
- (5) 業務の範囲
仕向地における荷卸しまで ~~（仕向地でのデバンニング含む）~~
- (6) 安全かつ迅速な輸送
受注者は、仕向地に至るまで、安全かつ迅速な輸送を手配しなければなら

ない。

海上輸送にあたっては、受注者は原則次の条件を満たす船舶を手配しなければならない。

(ア) 船齢は15歳以下

(イ) 国際船級協会連合（IACS）の正会員または準会員の船級を有していること

(ウ) 国際総トン数1000トン以上

(7) 積替え条件

途中経由地での積替えは原則的に禁止する。ただし、輸送事情等やむを得ない理由で積替えする場合は、認めることとするが、貨物海上保険料等の追加分が発生する場合には、受注者の負担とする。

(8) 発注者又は荷受人の責任と費用負担で行う事項

①相手国における輸入通関手続き

受注者は荷受人の輸入通関手続きを側面支援し、免税手続きが速やかに行なえるよう必要書類を遅滞なく提出すること。

②通関に日数を要した場合の保管料

通常に通関に必要な日数にかかる保管料は受注者の負担とするが、通常以上に日数を要した場合で、かつ受注者に責がない場合の保管料は発注者又は荷受人の負担とする。

(9) 仕向港から仕向地までの陸上輸送

現地の事情を踏まえつつ、内陸輸送エージェント、輸送手段、ルート、コンテナは買い取りか借り上げかなどについて比較検討の上、安全で効率的な輸送方法を選択すること。また、第三国の通過に必要な経由国での手続きについては、原則として受注者が行い、受注者の費用負担とする。

(10) その他注意事項

機材に車両がある場合、内陸輸送中の自走は不可とする。指定倉庫受けから本船のエプロンまでの横持ちやRO/RO船のランプウェイの昇り降り、トレーラへの昇り降りの際は運転可能とする。

3 貨物海上保険

~~受注者の任意とする。ただし、仕向地で引き渡すまで（保管中及び技師派遣があるときは技師の業務実施中、現地工事があるときは施工中を含む）に損害が発生した場合、受注者は自らの責任で保険求償等を行い、代替品納入あるいは修理を行うこと。~~

受注者は当機構が特約を締結している保険会社の特約条件で貨物海上保険を付保する。

4 輸送書類

(1) 必要書類と部数

受注者は、以下の書類が発行され次第、成果物として発注者に速やかに提出すること。

(航空輸送の場合、原則として出発予定日の 14 営業日前までに①②③⑩を提出のこと)

提出書類名	海上輸送	航空輸送
① 海上輸送 : Bill of Lading *	正 3 部、写 2 部	
航空輸送 : Air Waybill		正 1 部、写 1 部
② Invoice **	正 1 部 写 2 部	正 1 部、写 1 部
③ Packing List**	正 1 部 写 2 部	正 1 部、写 1 部
④ 保険証券 / Marine Cargo Policy	正 2 部、写 1 部	正 2 部、写 1 部
⑤ 海上保険料請求書 / Debit Note	正 2 部	正 2 部
⑥ 検量証明書***	必要に応じて	不要
⑦ 原産地証明書	正 1 部、写 1 部	必要に応じて
⑧ 領事査証	必要に応じて	
⑨ 梱包材熱処理証明書等****	必要に応じて	
⑩ 非木材証明書	必要に応じて	
⑪ 輸送日程報告カード (確定)	電子データ 1 部	電子データ 1 部
⑫ 輸出許可通知書	正 1 部	正 1 部

* B/L は荷受人宛の船積港/出発地空港から仕向地までの一貫した輸送責任を有する Combined Transport (Multimodal) B/L であり、運賃払込済み無故障船荷証券とすること。

** ~~書式は受注者のものを使用すること。荷受人宛として受注者発注者署名入りとすること。~~

*** 海上輸送の場合、出荷国の検量機関による検量を行い、検量証明書を提出すること。

**** 経由地で必要な場合は取り付けること。

(2) 船積書類記載事項 (Consignee)

Department of Civil Engineering Faculty of Engineering, National
University of Laos.
Sokpaluang Campus, Lao-Thai Friendship Rd., Sisattanak District,
Vientiane Capital,
Lao PDR
Tel:+856-20-22491914
Attn : Dr. Khamhou SAPHOUVONG, Acting Head, Dept of Civil Engineering

(Notify Party)

- ① Same as consignee
- ② JICA Laos Office
2nd Floor, Sacombank Building, 044 Haengboun Rd, Ban Haisok,
Chanthabouly District Vientiane Capital, Lao P.D.R
Mr. Yuho Hashimoto

(Shipper) JICA とする。

JICA Headquarter
5-25 Nibancho, Chiyodaku, Tokyo
TEL : +81-3-5226-1246

(その他)

以下の文言を記入すること。

“The above mentioned equipment is to be donated under Technical
Cooperation by the Government of Japan.”

(その他国別の特別な記載事項あれば記載)

以上

業務委託契約書

1. 業務名称 ラオス国産産業発展のための工学人材強化プロジェクト向け
 機材の輸送
2. 契約金額 金00,000,000円
 (内 消費税及び地方消費税の合計額 0,000,000円)
3. 履行期間 2023年11月●●日から
 2023年12月●●日まで

頭書業務の実施について、独立行政法人国際協力機構（以下「発注者」という。）と●●●●（以下「受注者」という。）とはおのおの対等な立場における合意に基づいて、次の条項によって契約（以下「本契約」という。）を締結し、信義に従って誠実にこれを履行するものとする。

（総 則）

- 第1条 受注者は、本契約に定めるところに従い、附属書Ⅱ「梱包条件書」及び附属書Ⅲ「輸送条件書」に定義する業務を、善良な管理者の注意義務をもって誠実に履行し、発注者は受注者に対しその対価を支払うものとする。
- 2 受注者は、本契約書に特別の定めがある場合を除き、業務を実施するために必要な方法、手段、手順については、受注者の責任において定めるものとする。
- 3 頭書の「契約金額」に記載の「消費税及び地方消費税」（以下「消費税等」という。）とは、消費税法（昭和63年法律第108号）及び地方税法（昭和25年法律第226号）の規定に基づくものである。
- 4 税法の改正により消費税等の税率が変更された場合は、変更後の税率の適用日以降における消費税等の額は変更後の税率により計算された額とする。ただし、法令に定める経過措置に該当する場合又は消費税率変更前に課税資産の譲渡等が行われる場合は、消費税等の額は変更前の税率により計算された額とする。
- 5 本契約の履行及び業務の実施（安全対策を含む。）に関し、受注者から発注者に提出する書類は、発注者の指定するものを除き、第5条に定義する監督職員を経由して提出するものとする。
- 6 前項の書類は、第5条に規定する監督職員に提出された日に発注者に提出されたものとみなす。
- 7 発注者は、本業務の委託に関し、受注者から契約保証金を徴求しない。
- 8 受注者が共同企業体である場合は、その構成員は、発注者に対して、連帯して本契約を履行し、業務を実施する義務を負うものとする。また、本契約に基づく賠償金、違約金及び延滞金が発生する場合は、全構成員による連帯債務とする。

(業務計画書)

第2条 削除

(権利義務の譲渡等)

第3条 受注者は、本契約の地位又は本契約により生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、又は継承させてはならない。ただし、あらかじめ書面による発注者の承諾を得たときは、この限りでない。

(再委託又は下請負の禁止)

第4条 受注者は、業務の実施を第三者に委託し、又は請け負わせてはならない。ただし、本契約書に特別の定めがあるとき又はあらかじめ書面による発注者の承諾を得たときは、この限りでない。

2 受注者が、前項ただし書の規定により業務の一部の実施を第三者に委託し、又は請け負わせる場合は、次の各号の条件が課されるものとする。

(1) 受注者は発注者に対し、本契約により生ずる一切の義務を免れるものではなく、また、受託者又は下請負人の役職員を受注者の役職員とみなし、当該役職員が本契約により生ずる受注者の義務に違反した場合は、受注者が責任を負うものとする。

(2) 発注者は、受注者に対して、受託者又は下請負人の名称その他必要な事項の通知を求めることができる。

(3) 第18条第1項第8号イからトまでのいずれかに該当する者を受託者又は下請負人としてはならない。

(監督職員)

第5条 発注者は、本契約の適正な履行を確保するため、独立行政法人国際協力機構調達・派遣業務部契約第三課長の職にある者を監督職員と定める。

2 監督職員は、本契約の履行及び業務の実施に関して、次に掲げる業務を行う権限を有する。

(1) 第1条第5項に定める書類の受理

(2) 本契約に基づく、受注者又は次条に定める受注者の業務責任者に対する指示、承諾及び協議

(3) 本契約に基づく、業務工程の監理及び立会

3 前項における、指示、承諾、協議及び立会とは、次の定義による。

(1) 指示 監督職員が受注者又は受注者の業務責任者に対し、監督職員の所掌権限に係る方針、基準、計画等を示し、実施させることをいう。

(2) 承諾 受注者又は受注者の業務責任者が監督職員に報告し、監督職員が所掌権限に基づき了解することをいう。

(3) 協議 監督職員と受注者又は受注者の業務責任者が対等の立場で合議し、結論を得ることをいう。

(4) 立会 監督職員又はその委任を受けたものが作業現場に出向き、本契約書に基づき業務が行われているかを確認することをいう。

4 第2項第2号の規定に基づく監督職員の指示、承諾及び協議は、原則としてこれを書面に記録することとする。

5 発注者は、監督職員に対し本契約に基づく発注者の権限の一部であって、第2

項で定める権限以外のものを委任したときは、当該委任した権限の内容を書面により受注者に通知しなければならない。

- 6 発注者は、監督職員を通じて、受注者に対し、いつでも本契約の業務の履行状況の報告を求めることができる。

(業務責任者)

第6条 受注者は、本契約の履行に先立ち、業務責任者を定め、発注者に届出をしなければならない。発注者の同意を得て、業務責任者を交代させたときも同様とする。

- 2 受注者は、前項の規定により定めた業務責任者に、業務の実施についての総括管理を行わせるとともに、発注者との連絡に当たらせなければならない。

- 3 業務責任者は、本契約に基づく受注者の行為に関し、受注者を代表する権限(ただし、契約金額の変更、作業項目の追加等業務内容の重大な変更、履行期間の変更、損害額の決定、本契約に係る支払請求及び金銭受領の権限並びに本契約の解除に係るものを除く。)を有するものとする。

(業務内容の変更)

第7条 発注者は、必要があると認めるときは、受注者に対して書面による通知により業務内容の変更を求めることができる。

- 2 発注者は、必要があると認めるときは、受注者に対して書面による通知により業務の全部又は一部を一時中止させることができる。

- 3 第1項により業務内容を変更する場合において、履行期間若しくは契約金額を変更する必要があると認められるとき、又は受注者が直接かつ現実に損害を受けたときは、発注者及び受注者は、変更後の履行期間及び契約金額並びに賠償額について協議し、当該協議の結果を書面により定める。

- 4 第2項の場合において、受注者に増加費用が生じたとき、又は受注者が直接かつ現実に損害を受けたときは、発注者はその費用を負担し、又はその損害を賠償しなければならない。この場合において、発注者及び受注者は、負担額及び賠償額を協議し、当該協議の結果を書面により定める。

(一般的損害)

第8条 業務の実施において生じた損害(本契約で別に定める場合を除く。)については、受注者が負担する。ただし、発注者の責に帰すべき理由により生じた損害については、発注者が負担する。

(第三者に及ぼした損害)

第9条 業務の実施に関し、第三者に及ぼした損害について、当該第三者に対して賠償を行わなければならない場合は、受注者がその賠償額を負担する。

- 2 前項の規定にかかわらず、同項に規定する損害の発生が発注者の責に帰すべき事由による場合は、発注者がその賠償額を負担する。ただし、受注者が、発注者の責に帰すべき事由があることを知りながらこれを発注者に通知しなかったときは、この限りでない。

- 3 前二項の場合において、その他業務の実施に関し、第三者との間に紛争が生じたときは、発注者、受注者協力してその処理解決に当たるものとする。

(検査)

- 第 10 条 受注者は、業務を完了したときは、遅滞なく、発注者に対して業務完了届を提出しなければならない。この場合において、発注者が認める場合は、受注者は、第 14 条に規定する経費確定（精算）報告書に代えて、附属書Ⅱ「契約金額内訳書」（以下「契約金額内訳書」という。）に規定する単価等に基づき確定した経費の内訳及び合計を業務完了届に記載することができる。
- 2 業務の完了前に、本契約書において可分な業務として規定される一部業務が完了した場合は、受注者は、当該部分業務に係る業務完了届を提出することができる。発注者が受注者に対し、当該部分業務に係る業務完了届の提出を求めたときは、受注者は、遅滞なく業務完了届を提出しなければならない。
 - 3 発注者は、前 2 項の業務完了届を受理したときは、その翌日から起算して 10 営業日以内に当該業務について確認検査を行い、その結果を受注者に通知しなければならない。

(債務不履行)

- 第 11 条 受注者の責に帰すべき理由により、受注者による本契約の履行が本契約の本旨に従った履行と認められない場合、又は、履行が不能になった場合は、発注者は受注者に対して、完全な履行を請求し、又は履行に代え若しくは履行とともに損害の賠償を請求することができる。この場合において、本契約の目的が達せられない場合は、発注者は、本契約の全部又は一部を解除することができる。

(成果物等の取扱い)

- 第 12 条 受注者は、本契約書に成果物（以下「成果物」という。）が規定されている場合は、成果物を、本契約書に成果物が規定されていない場合は、業務実施報告書（以下「業務実施報告書」という。）を、第 10 条第 1 項及び第 2 項に規定する業務完了届に添付して提出することとし、第 10 条第 3 項に規定する検査を受けるものとする。
- 2 前項の場合において、第 10 条第 3 項に定める検査の結果、成果物及び業務実施報告書について補正を命ぜられたときは、受注者は遅滞なく当該補正を行い、発注者に補正完了の届を提出して再検査を受けなければならない。この場合において、再検査の期日については、第 10 条第 3 項の規定を準用する。
 - 3 受注者は、本契約書に業務提出物（以下、「業務提出物」という。）が規定されている場合は、業務提出物を本契約書の規定（内容、形態、部数、期限等）に基づき提出し、監督職員の確認を得なければならない。
 - 4 受注者が提出した成果物、業務実施報告書及び業務提出物（以下総称して「成果物等」という。）の所有権は、それぞれ第 10 条第 3 項に定める検査合格又は前項に定める監督職員の確認の時に、受注者から発注者に移転する。
 - 5 受注者が提出した成果物等の著作権（著作権法第 27 条、第 28 条所定の権利を含む。）は、本契約書にて別途定めるもの及び受注者又は第三者が従来から著作権を有する著作物を除き、それぞれ第 10 条第 3 項に定める検査合格又は前項に定める監督職員の確認の時に受注者から発注者に譲渡されたものとし、著作権が受注者から発注者に譲渡された部分の利用又は改変については、受注者は発注者に対して著作者人格権を行使しないものとする。また、成果物等のうち、受注者

が従来から著作権を有する著作物については、受注者は、これら著作物を発注者が利用するために必要な許諾を発注者に与えるものとし、第三者が従来から著作権を有する著作物については、受注者は、責任をもって第三者から発注者への利用許諾を得るものとする。

- 6 前項の規定は、第 11 条、第 18 条第 1 項、第 19 条第 1 項又は第 20 条第 1 項の規定により本契約を解除した場合についても、これを準用する。

(成果物等の契約不適合)

- 第 13 条 発注者は、成果物等に本契約書との不一致その他契約の内容に適合しないもの（以下「契約不適合」という。）を発見したときは、発注者がその契約不適合を知った日から 1 年以内にその旨を通知した場合に限り、受注者に対して相当の期間を定めてその契約不適合の修補を請求し、契約金額の減額を請求し又はこれらに代え、若しくはこれらと併せて損害の賠償を請求することができる。
- 2 発注者は、成果物等に契約不適合があるときは、発注者がその契約不適合を知った日から 1 年以内に受注者にその旨を通知した場合に限り、本契約の全部又は一部を解除することができる。
- 3 前二項において受注者が負うべき責任は、前条第 1 項及び第 2 項の検査の合格又は前条第 3 項の監督職員の確認をもって免れるものではない。

(経費の確定)

- 第 14 条 受注者は、履行期間末日の翌日から起算して 30 日以内に、発注者に対し、経費確定（精算）報告書（以下「経費報告書」という。）を提出しなければならない。ただし、発注者の事業年度末においては、発注者が別途受注者に通知する日時までに提出するものとする。
- 2 受注者は、第 10 条第 2 項に定める可分な業務にかかる業務完了届を提出する場合は、当該業務完了届の提出日の翌日から起算して 30 日以内に、発注者に対し、当該業務に係る経費報告書を提出しなければならない。ただし、発注者の事業年度末においては、発注者が別途受注者に通知する日時までに提出するものとする。
- 3 受注者は、契約金額内訳書のうち精算を必要とする費目についての精算を行うに当たっては、経費報告書の提出と同時に必要な証拠書類一式を発注者に提出しなければならない。
- 4 発注者は、第 1 項及び第 2 項の経費報告書及び前項の必要な証拠書類一式を検査のうえ、契約金額の範囲内で発注者が支払うべき額（以下「確定金額」という。）として確定し、経費報告書を受領した日の翌日から起算して 30 日以内に、これを受注者に通知しなければならない。
- 5 前項の金額の確定は、次の各号の定めるところにより行うものとする。
- (1) 業務の対価（報酬）
契約金額の範囲内において、定められた単価及び実績による。

(支払)

- 第 15 条 受注者は、第 10 条第 3 項による検査に合格し、前条第 4 項の規定による確定金額の決定通知を受けたときは、発注者に確定金額の支払を請求することができる。
- 2 発注者は、前項の規定による請求を受けたときは、請求を受けた日の翌日から

起算して 30 日以内に支払を行わなければならない。

- 3 前項の規定にかかわらず、発注者は、受注者の支払請求を受理した後、その内容の全部又は一部に誤りがあると認めるときは、その理由を明示して当該請求書を受注者に返付することができる。この場合は、当該請求書を返付した日から是正された支払請求を発注者が受理した日までの期間の日数は、前項に定める期間の日数に算入しないものとする。

(履行遅滞の場合における損害の賠償)

- 第 16 条 受注者の責に帰すべき理由により、履行期間内に業務を完成することができない場合において、履行期間経過後相当の期間内に完成する見込みのあるときは、発注者は受注者に履行遅滞により発生した損害の賠償を請求するとともに、成果物等の引渡しを請求することができる。
- 2 前項の損害賠償の額は、契約金額から既に引渡しを受けた成果物等に係る部分に相当する金額を控除した額につき、遅延日数に応じ、履行期間が経過した時点における政府契約の支払遅延防止等に関する法律（昭和 24 年法律第 256 号）に規定する利率（以下「本利率」という。）で算出した額とする。
- 3 発注者の責に帰すべき理由により、発注者が第 15 条に従って支払義務を負う確定金額の支払が遅れた場合は、受注者は、当該確定金額のうち未受領の金額につき、遅延日数に応じ、本利率で算出した額の遅延利息の支払いを発注者に請求することができる。

(天災その他の不可抗力の扱い)

- 第 17 条 自然災害又は暴動、ストライキ等の人為的な事象であって、発注者、受注者双方の責に帰すべからざるもの（以下「不可抗力」という。）により、発注者、受注者いずれかによる履行が遅延又は妨げられる場合は、当事者は、その事実発生後遅滞なくその状況を書面により本契約の相手方に通知しなければならない、また、発注者及び受注者は、通知後速やかに書面にて不可抗力の発生の事実を確認し、その後の必要な措置について協議し定める。
- 2 不可抗力により生じた履行の遅延又は不履行は、本契約上の義務の不履行又は契約違反とはみなさない。

(発注者の解除権)

- 第 18 条 発注者は、受注者が次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、催告を要せずして、本契約を解除することができる。
 - (1) 受注者の責に帰すべき事由により、本契約の目的を達成する見込みがないと明らかに認められるとき。
 - (2) 受注者が本契約に違反し、その違反により本契約の目的を達成することができないと認められるとき。
 - (3) 受注者が第 20 条第 1 項に規定する事由によらないで本契約の解除を申し出、本契約の履行を果たさないとき。
 - (4) 第 23 条第 1 項各号のいずれかに該当する行為があったとき。
 - (5) 受注者に不正な行為があったとき、又は発注者の名誉ないし信用を傷つける行為をしたとき。
 - (6) 受注者に仮差押又は仮処分、差押、競売、破産、民事再生、会社更生又は特

別清算等の手続開始の申立て、支払停止、取引停止又は租税滞納処分等の事実があったとき。

(7) 受注者が「独立行政法人国際協力機構関係者の倫理等ガイドライン」に違反したとき。

(8) 受注者が、次に掲げる各号のいずれかに該当するとき、又は次に掲げる各号のいずれかに該当する旨の新聞報道、テレビ報道その他報道（ただし、日刊新聞紙等、報道内容の正確性について一定の社会的評価が認められている報道に限る。）があったとき。

イ 役員等が、暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力集団等（各用語の定義は、独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程（平成24年規程（総）第25号）に規定するところにより、これらに準ずる者又はその構成員を含む。以下「反社会的勢力」という。）であると認められるとき。

ロ 役員等が暴力団員でなくなった日から5年を経過しない者であると認められるとき。

ハ 反社会的勢力が経営に実質的に関与していると認められるとき。

ニ 法人である受注者又はその役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしているとき。

ホ 法人である受注者又はその役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき。

ヘ 法人である受注者又はその役員が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしているとき。

ト 法人である受注者又はその役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有しているとき。

チ 受注者が、再委託、下請負又は物品購入等にかかる契約に当たり、その相手方がイからトまでのいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結したと認められるとき。

リ 受注者が、イからトまでのいずれかに該当する者を再委託、下請負又は物品購入等にかかる契約の相手方としていた場合（前号に該当する場合を除く。）に、発注者が受注者に対して当該契約の解除を求め、受注者がこれに従わなかったとき。

ヌ その他受注者が、東京都暴力団排除条例又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行ったとき。

2 前項の規定により本契約が解除された場合（前項第4号の場合を除く。）は、受注者は発注者に対し契約金額（本契約締結後、契約金額の変更があった場合には、変更後の契約金額とする。）の10分の1に相当する金額を違約金として、発注者の指定する期間内に発注者に納付しなければならない。この場合において、発注者の被った実損害額が当該違約金の額を超えるときは、発注者は、受注者に対して、別途、当該超過部分の賠償を請求することができる。

（発注者のその他の解除権）

第19条 発注者は、前条第1項に規定する場合のほか、その理由を問わず、少なく

とも 30 日前に書面により受注者に予告通知のうえ、本契約を解除することができる。

- 2 第 1 項の規定により本契約を解除した場合において、受注者が受注者の責に帰することができない理由により損害を受けたときは、発注者はその損害を賠償するものとする。賠償額は、受注者が既に支出し、他に転用できない費用に契約業務を完成したとすれば収得しえたであろう利益を合算した金額とする。

(受注者の解除権)

第 20 条 受注者は、発注者が本契約に違反し、その違反により業務を完了することが不可能となったときは、本契約を解除することができる。

- 2 前項の規定により本契約を解除した場合は、前条第 2 項の規定を準用する。

(解除に伴う措置)

第 21 条 発注者は、本契約が解除された場合においては、業務の出来高部分のうち、検査に合格したものについては、引渡しを受けるものとし、当該引渡しを受けたときは、当該引渡しを受けた出来高部分に相応する発注済金額を支払わなければならない。

(調査・措置)

第 22 条 受注者が、第 18 条第 1 項各号又は第 23 条第 1 項各号に該当すると疑われる場合は、発注者は、受注者に対して調査を指示し、その結果を文書で発注者に報告させることができ、受注者は正当な理由なくこれを拒否してはならないものとする。

- 2 発注者は、前項の報告を受けたときは、その内容を詳細に確認し、事実の有無を判断するものとする。この場合において、発注者が審査のために必要であると認めるときは、受注者からの説明を求め、必要に応じ受注者の事業所に赴き検査を行うことができるものとする。
- 3 発注者は、第 18 条第 1 項各号又は第 23 条第 1 項各号に該当する不正等の事実を確認した場合は、必要な措置を講じることができるものとする。
- 4 発注者は、前項の措置を講じた場合は、受注者名及び不正の内容等を公表することができるものとする。

(重大な不正行為に係る違約金)

第 23 条 受注者が次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、発注者の解除権行使の有無にかかわらず、受注者は契約金額（本契約締結後、契約金額の変更があった場合には、変更後の契約金額とする）の 10 分の 2 に相当する金額を違約金として発注者の指定する期間内に納付しなければならない。

- (1) 次のいずれかの目的により、受注者の役職員又はその指図を受けた者が刑法（明治 40 年法律第 45 号）第 198 条（贈賄）又は不正競争防止法（平成 5 年法律第 47 号）第 18 条（外国公務員等に対する不正の利益の供与等の禁止）に違反する行為を行い刑が確定したとき。また、受注者が同条に相当する外国の法令に違反する行為を行い、同国の司法機関による確定判決又は行政機関による最終処分がなされたときも同様とする。

イ 本契約の業務の実施にかかる便宜を得る目的

- ロ 本契約の業務の実施の結果を受けて形成された事業の実施を内容とする契約の受注又は事業の許認可の取得等にかかる便宜を得る目的（本契約の履行期間中に違反行為が行われ、又は本契約の経費若しくは対価として支払を受けた金銭を原資として違反行為が行われた場合に限る。）
- (2) 受注者又は受注者の意を受けた関係者が、本契約の業務に関し、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和 22 年法律第 54 号）（以下、「独占禁止法」）第 3 条、第 6 条又は第 8 条に違反する行為を行い、公正取引委員会から独占禁止法第 7 条又は同法第 8 条の 2（同法第 8 条第 1 号若しくは第 2 号に該当する行為の場合に限る。）の規定による排除措置命令を受け、又は第 7 条の 2 第 1 項（同法第 8 条の 3 において読み替えて準用する場合を含む。）の規定による課徴金の納付命令を受け、当該納付命令が確定したとき。
- (3) 公正取引委員会が、受注者又は受注者の意を受けた関係者に対し、本契約の業務の実施に関して独占禁止法第 7 条の 4 第 7 項の規定による課徴金の納付を命じない旨の通知を行ったとき。
- (4) 受注者又はその意を受けた関係者（受注者又は当該関係者が法人の場合は、その役員又は使用人）が、本契約の業務の実施に関し、刑法第 96 条の 6（公契約関係競売等妨害）、独占禁止法第 89 条第 1 項又は同法第 90 条 1 号及び 2 号に違反する行為を行い刑が確定したとき。
- (5) 第 1 号、第 2 号及び前号に掲げるいずれかの違反行為があったことを受注者（受注者が共同企業体である場合は、当該共同企業体の構成員のいずれか）が認めるとき。ただし、発注者は、受注者が、当該違反行為について自主的な申告を行い、かつ発注者に協力して損害の発生又は拡大を阻止し、再発防止のため適切な措置を講じたときは、違約金を免除又は減額することができる。なお、受注者が共同企業体である場合は、その構成員の一が自主的な申告を行い、かつ発注者に協力して損害の発生又は拡大を阻止し、再発防止のため適切な措置を講じたときは、発注者は、当該構成員に対し、違約金を免除又は減額することができる。
- (6) 第 14 条に定める経費確定（精算）報告において受注者が故意又は重過失により虚偽の資料等を提出し、発注者に対して過大な請求を行ったことが認められたとき。
- 2 受注者が前項各号に複数該当するときは、発注者は、諸般の事情を考慮して、同項の規定により算定される違約金の総額を減額することができる。ただし、減額後の金額は契約金額の 10 分の 2 を下ることはない。
- 3 前二項の場合において、発注者の被った実損害額が当該違約金の額を超えるときは、発注者は、受注者に対して、別途、当該超過部分の賠償を請求することができるものとする。
- 4 前三項に規定する違約金及び賠償金は、第 18 条第 2 項に規定する違約金及び賠償金とは独立して適用されるものとする。
- 5 受注者が共同企業体である場合であって、当該共同企業体の構成員のいずれかが次の各号のいずれかに該当するときは、第 1 条第 8 項の規定にかかわらず、発注者は、当該構成員に対して第 1 項から第 3 項までに規定する違約金及び賠償金を請求しないことができる。ただし、第 2 号に掲げる者のうち当該違反行為を知りながら発注者への通報を怠ったものについては、この限りでない。
- (1) 第 1 項第 1 号又は第 4 号に該当する場合であって、その判決内容等におい

て、違反行為への関与が認められない者

(2) 第1項第5号に該当する場合であって、違反行為があったと認めた構成員が、当該違反行為に関与していないと認めた者

6 前項の適用を受けた構成員（以下「免責構成員」という。）がいる場合は、当該共同企業体の免責構成員以外の構成員が当該違約金及び賠償金の全額を連帯して支払う義務を負うものとする。

7 前各項の規定は、本契約の業務が完了した後も引き続き効力を有するものとする。

（賠償金等）

第24条 受注者が本契約に基づく賠償金又は違約金を発注者の指定する期間内に支払わないときは、発注者は、その支払わない額が発注者の指定する期間を経過した日から支払の日まで本利率で算出した利息を付した額と、発注者が契約に従って支払うべき金額とを相殺し、なお不足があるときは受注者に支払を請求することができる。

2 前項の請求をする場合は、発注者は、受注者に対して、前項に基づき発注者が指定した期間を経過した日から遅延日数に応じ、本利率で算出した額の延滞金の支払を受注者に請求する。

（秘密の保持）

第25条 受注者（第4条に基づき受注者が選任する再委託先又は下請負人を含む。本条において以下同じ。）は、業務の実施上知り得た情報（以下「秘密情報」という。）を秘密として保持し、これを第三者に開示してはならない。ただし、次の各号に定める情報については、この限りでない。

(1) 開示を受けた時に既に公知であったもの

(2) 開示を受けた時に既に受注者が所有していたもの

(3) 開示を受けた後に受注者の責に帰さない事由により公知となったもの

(4) 開示を受けた後に第三者から秘密保持義務を負うことなく適法に取得したものの

(5) 開示の前後を問わず、受注者が独自に開発したことを証明するもの

(6) 法令並びに政府機関及び裁判所等の公の機関の命令により開示が義務付けられたもの

(7) 第三者への開示につき、発注者又は秘密情報の権限ある保持者から開示について事前の承認があったもの

2 受注者は、秘密情報について、業務の履行に必要な範囲を超えて使用、提供又は複製してはならない。また、いかなる場合も改ざんしてはならない。

3 受注者は、本契約の業務に従事する者（下請負人がある場合には下請負人を含む。以下「業務従事者等」という。）が、その在職中、退職後を問わず、秘密情報を保持することを確保するため、秘密取扱規定の作成、秘密保持誓約書の徴収その他必要な措置を講じなければならない。

4 受注者は、秘密情報の漏えい、滅失又はき損その他の秘密情報の管理に係る違反行為等が発生したときは、直ちに被害の拡大防止及び復旧等のために必要な措置を講ずるとともに、速やかに発注者に報告し、発注者の指示に従わなければならない。

- 5 発注者は、必要があると認めるときは、受注者の同意を得た上で、受注者の事務所等において秘密情報が適切に管理されているかを調査し、管理状況が不適切である場合は、改善を指示することができる。
- 6 受注者は、本契約業務の完了後、速やかに秘密情報の使用を中止し、秘密情報を含む書類、図面、写真、フィルム、テープ、ディスク等の媒体（受注者が作成した複製物を含む。）を発注者に返却し、又は、当該媒体に含まれる秘密情報を復元できないよう消去若しくは当該媒体を破壊した上で、破棄し、その旨を発注者に通知しなければならない。ただし、発注者から指示があるときはそれに従うものとする。
- 7 前各項の規定は、本契約の業務が完了した後も引き続き効力を有する。

（個人情報保護）

- 第 26 条 受注者は、本契約において、発注者の保有個人情報（「個人情報の保護に関する法律」（平成 15 年法律第 57 号。以下「個人情報保護法」という。）第 60 条で定義される保有個人情報を指し、以下「保有個人情報」という。）を取り扱う場合は、次の各号に定める義務を負うものとする。
- （1）業務従事者等に次の各号に掲げる行為を遵守させること。ただし、予め発注者の承認を得た場合は、この限りでない。
 - イ 保有個人情報について、改ざん又は業務の履行に必要な範囲を超えて利用、提供、複製してはならない。
 - ロ 保有個人情報を第三者へ提供し、その内容を知らせてはならない。
 - （2）業務従事者等が前号に違反したときは、受注者に適用のある個人情報保護法が定める罰則が適用され得ることを、業務従事者等に周知すること。
 - （3）保有個人情報の管理責任者を定めること。
 - （4）保有個人情報の漏えい、滅失、き損の防止その他個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じること。受注者は、発注者が定める個人情報保護に関する実施細則（平成17年細則（総）第11号）を準用し、当該細則に定められた事項につき適切な措置を講じるものとする。特に個人情報を扱う端末の外部への持ち出しは、発注者が認めるときを除き、これを行ってはならない。
 - （5）発注者の求めがあった場合は、保有個人情報の管理状況を書面にて報告すること。
 - （6）保有個人情報の漏えい、滅失又はき損その他の本条に係る違反行為等が発生したときは、直ちに被害の拡大防止及び復旧等のために必要な措置を講ずるとともに、速やかに発注者に報告し、その指示に従うこと。
 - （7）受注者は、本契約の業務実施の完了後、速やかに保有個人情報の使用を中止し、保有個人情報を含む書類、図面、写真、フィルム、テープ、ディスク等の媒体（受注者が作成した複製物を含む。）を発注者に返却し、又は、当該媒体に含まれる保有個人情報を復元できないよう消去若しくは当該媒体を破壊した上で破棄し、当該廃棄した旨を記載した書面を発注者に提出しなければならない。ただし、発注者から指示があるときはそれに従うものとする。
- 2 発注者は、必要があると認めるときは、受注者の事務所等において、保有個人情報が適切に管理されているかを調査し、管理状況が不適切である場合は、改善を指示することができる。
 - 3 第 1 項第 1 号及び第 6 号並びに前項の規定は、本契約の業務が完了した後も引

き続き効力を有する。

(情報セキュリティ)

第 27 条 受注者は、発注者が定めるサイバーセキュリティ対策に関する規程（平成 29 年規程(情)第 14 号）及びサイバーセキュリティ対策実施細則（平成 29 年細則(情)第 11 号）を準用し、当該規定及び細則に定められた事項につき適切な措置を講じるものとする。

(安全対策)

第 28 条 受注者は、業務従事者等の生命・身体等の安全優先を旨として、自らの責任と負担において、必要な安全対策を講じて、業務従事者等の安全確保に努めるものとする。

(業務災害補償等)

第 29 条 受注者は、自己の責任と判断において業務を遂行し、受注者の業務従事者等の業務上の負傷、疾病、障害又は死亡にかかる損失については、受注者の責任と負担において十分に付保するものとし、発注者はこれら一切の責任を免れるものとする。

(海外での安全対策)

第 30 条 削除

(業務引継に関する留意事項)

第 31 条 本契約の履行期間の満了、全部若しくは一部の解除、又はその他理由の如何を問わず、本契約の業務が完了した場合には、受注者は発注者の求めによることに従い、本契約の業務を発注者が継続して遂行できるように必要な措置を講じるか、又は第三者に移行する作業を支援しなければならない。

(契約の公表)

第 32 条 受注者は、本契約の名称、契約金額並びに受注者の名称及び住所等が一般に公表されることに同意するものとする。

2 受注者が法人であって、かつ次の各号のいずれにも該当する場合は、前項に定める情報に加え、次項に定める情報が一般に公表されることに同意するものとする。

(1) 発注者において役員を経験した者が受注者に再就職していること、又は発注者において課長相当職以上の職を経験した者が受注者の役員等として再就職していること

(2) 発注者との取引高が、総売上高又は事業収入の 3 分の 1 以上を占めていること

3 受注者が前項の条件に該当する場合に公表される情報は、以下のとおりとする。

(1) 前項第 1 号に規定する再就職者に係る情報（氏名、現在の役職、発注者における最終職名）

(2) 受注者の直近 3 ヶ年の財務諸表における発注者との間の取引高

(3) 受注者の総売上高又は事業収入に占める発注者との間の取引高の割合

4 受注者が「独立行政法人会計基準」第 14 章に規定する関連公益法人等に該当する場合は、受注者は、同基準第 14 章の規定される情報が、発注者の財務諸表の附属明細書に掲載され一般に公表されることに同意するものとする。

(準拠法)

第 33 条 本契約は、日本国の法律に準拠し、同法に従って解釈されるものとする。

(契約外の事項)

第 34 条 本契約に定めのない事項又は本契約の条項について疑義が生じた場合は、必要に応じて発注者及び受注者が協議して、これを定める。

(合意管轄)

第 35 条 本契約に関し、裁判上の紛争が生じた場合は、当該紛争の内容や形式如何を問わず、東京地方裁判所又は東京簡易裁判所を第一審の専属的管轄裁判所とする。

本契約の証として、本書を電磁的に作成し、発注者、受注者それぞれ合意を証する電磁的措置を執ったうえ、双方保管するものとする。

なお、本契約は、以下の日付より効力を生じるものとする。

2023年●月●●日

発注者

東京都千代田区二番町5番地25

独立行政法人国際協力機構

契約担当役

理 事 ○○ ○○

受注者